# MUSASHINO for TOMORROW

Vol.126

巻　頭

## オルペウス以前

高橋睦郎（詩人）

卒業生インタビュー

～卒業式の定番ソング～

## 『旅立ちの日に』に込めた想い

高橋浩美（埼玉県立秩父特別支援学校教諭）

表紙：江古田キャンパス　モーツァルトホール

July 2018
vol.126

ジャン・デルヴィル「オルフェウス」(1893)

# オルペウス以前
## ～詩のことばと朗読～

高橋睦郎（詩人）

**傘寿を迎えた現在も意欲的に創作活動をつづけ、昨年、文化功労者、日本芸術院会員に選出された高橋睦郎さん。その活動の舞台は、詩、俳句、短歌、さらには能、狂言、浄瑠璃、オペラなど驚くほど多岐にわたっています。今回寄せてくださった原稿のテーマは、「詩のことばと朗読」。ことばと真摯に向き合い、自作詩の朗読会を積極的に行っている高橋さんが説く、詩と音(声)との関係、詩を声に出して読むことの意義とは？**

撮影：Jorgen Axcelvall

**高橋睦郎** *Mutsuo Takahashi*

1937年、北九州に生まれる。福岡教育大学卒業ののち上京して学芸の諸先輩に学ぶ。詩・短歌・俳句を併作。新作能、新作狂言、新作浄瑠璃、オペラ台本も手がける。詩集29冊、歌集8冊、句集9冊のほか、著書は130冊を超える。近著に詩集『つい昨日のこと　私のギリシア』、写真集『LOCUS AMOENUS　詩人のいる場所』。国内外での自作詩朗読にも力を入れる。

### 詠む、読む、呼ぶ

詩に最もふさわしい動詞は何だろう。詩をかくか。詩をつくるか。詩をうたうか。

詩ということばはわが国古来・固有のことば＝大和言葉（やまとことば）ではない。古代のわが国に海のむこうの先進国である中国から摂り入れられた外来語である。詩の訓（くによみ）、からうたがその辺の事情をよく説明している。からうたはから、つまり外国から渡来したうた。からうたに対応することばはやまとうたで、漢字は歌を当てる。

尤も、やまとうたはからうたに対応して造られた言葉で、からうたが入ってくる前は単にうただった。では、うたにふさわしい動詞は何か。うたの発語者をいう由緒正しいことばは、うたかきでも、うたつくりでも、うたうたいでもなく、うたよみ。つまり、うたに最もふさわしい動詞はよむである。

げんざい、うたよみのよみには詠の漢字を当てる。歌詠み、歌を創作する人、歌の作者のことだ。うたよみにはもう一つ別の漢字を当てることもある。歌読み、現在の慣用では歌を享受する人、歌の読者ということになる。しかし、私たちの祖先はさほど厳密に区別することはなかった。平安時代前期に編まれた国家的アンソロジー『古今和歌集』の中では、作者不詳を

意味するよみびとしらずに読人不知の漢字を当てている。

これはたぶん、詠人不知と当てるべきところを誤って読人不知とした、というようなことではあるまい。文字を知る前の日本人本来の語感では、詠むと読むの区別はなく、その原型は声に出して外にある霊魂を自分の中に引き寄せることを意味する呼ぶだったのではないか、と考えられる。

これを現在の観点から分析すれば、自分の外にある神や人や物の中の霊魂を、声に出して喚起し、うたという形に取りこむことが第一のよぶ＝よむ＝詠む。つぎに、うたという形に取りこまれた霊魂を、声に出して喚起し、自分の中に取り込むことが第二のよぶ＝よむ＝読むということになる。いずれにしても、かつてはうたを創作する場合も、うたを享受する場合も、声に出すことが不可欠だった。

これはわが国古代の特殊事情だろうか。おそらくそうではなかろう。詩＝からうたのふるさと古代中国では、詩人の始祖ともいえる屈原は、主君に棄てられて嘆き嘯きつつさまよい、これが後世『楚辞』という詩群になったといわれる。さらにヨーロッパ文明のみなもと古代ギリシアでは、詩人の元祖とされるオルペウスが、竪琴を弾じて即興で詩をつくりうたい、人々も、神々も、動物たち・植物たちも聞き惚れた、と伝えられる。

## オルペウスの漂流

オルペウスの人気は20世紀になっても衰えず、R.M.リルケが詩集『オルフォイスに捧げるソネット』を書き、J.コクトーが戯曲『オルフェ』、T.ウィリアムズが戯曲『地獄のオルフェウス』を著わし、そのどちらもが映画化されるなど、神話を超えて現代的存在でありつづけている。その時代を超えて息の長い人気の秘密は、神話の伝える劇的な生涯にあろう。

予言と音楽の神アポロンを父に、詩の女神ムーサを母に生まれたオルペウスは、木の妖精エウリュディケを愛し結ばれたが、その喜びもつかのま、エウリュディケは花を摘んでいて毒蛇に咬まれて死んだ。愛妻を忘れきれないオルペウスは冥界に下り、冥王夫妻の前で即興の詩を切々とうたって直談判し、感じ入った冥王夫妻はオルペウスの願いを聞き届ける。ただし、地上に出るまでけっして妻を振り返らないという条件付きで。ところが、オルペウスは地上までいま一歩というところで、妻がほんとうに従いてきているのか不安になってつい振り返り、エウリュディケは冥王のもとに引き戻されてしまう。

再度の願いを拒否されたオルペウスは森深く引きこもり、亡妻を忘れられないあまり、慕い寄る女たちをいっさい近づけなかった。誇りを傷つけられた女たちはオルペウスを見つけ襲いかかって八つ裂きにし、生首を生前愛用した竪琴に縛りつけて海に投げこんだ。オルペウスの生首はうたいながら漂流し、その流れついた先には、叙事詩人ホメロスが、抒情詩人サッポーやアルカイオスが生まれた、といわれる。比喩的にいえばオルペウスの漂流はその後もつづいていて、20世紀のリルケ、コクトー、ウィリアムズらに詩や戯曲を書かしめ、21世紀のいまもなお国籍を問わず多くの詩人たちに新しい作品を産ませつづけている、ということになろう。

## ことばの危機

オルペウス、またはオルペウスを元祖と仰ぐ古代ギリシアの詩人たちの詩に用いたことばはどんなことば

▲ ジャン・ラウー「オルフェウスとエウリュディケ」(1709)／冥界から妻のエウリュディケを連れ戻すオルペウス

だったのだろうか。竪琴を弾じてうたったというのだから、竪琴の音に合う韻（ライム）と律（リトム）とを持ったことばだったのだろう。じじつ、げんざい抒情詩をいうヨーロッパ語リリック、lyric, lyriqueはギリシア語で竪琴をいうリュラ、lyraに合わせてうたう意味から起こっている。オルペウス、神話化された古代ギリシアの詩人たちは、現代風にいえば作詩家であり作曲家、歌手であり演奏家、パフォーマーとしての舞踏家であり俳優でもあったのだろう。

ところが時代の経過とともに分業化が進み、げんざい詩人といえば単に詩を書く人、詩を作る人のことで、声や音は本質的属性と見做されなくなってしまった。そこにあるのは沈黙の言語である文字のみだ。詩人の変質は必然的に聴衆の変質をもたらす。詩人が単なる書く人になるとき、聴衆は単なる読む人、読者になる。詩人の表現器官が口（＝声帯と口腔）から手に移ったとき、聴衆の享受器官は耳（＝鼓膜と耳腔）から目に移った。音声言語を介した口と耳の交歓は終わり、文字言語を中にした手と目の交通が取って変わった。詩書を通しての詩の享受についても、現在は黙読が普通で音読は特殊との認識が一般的だろう。

人類の歴史における黙読の発生はすこぶる古く、正確には文字の発明時にまで溯る。文字のない時代、詩をはじめメッセージは口から発せられ、耳に受け取められて頭脳で記憶され、口で伝えられた。文字のない時代の記憶能力は、文字の時代を生きる私たち

▲ ローレンス・アルマ＝タデマ「サッポーとアルカイオス」（1881）
竪琴を弾きながら詩を吟じるアルカイオスと、それに聴きいるサッポー

## 音楽学部新人演奏会 ～平成29年度卒業生による～

平成30年4月24日　ヤマハホール

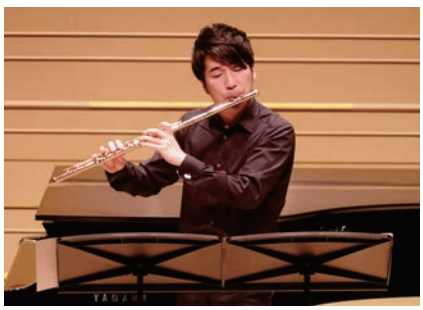
海沼優衣（打楽器）

金子千咲（ソプラノ）

岩倉宗二郎（トロンボーン）

楢田彩乃（ピアノ）

中野夏実（ヴァイオリン）



中野一麻（フルート）

古市明里（ピアノ）

の想像を絶していて、全篇語るには数日を要する叙事詩を、一字一句間違えず憶え語ることができた、という。ところが文字が発明されると、文字で記録できることに安心して、人間の記憶力は一挙に衰弱し、惜しみても余りある莫大な記憶が失われた、とされる。近世ドイツのグーテンベルクの活字・活版印刷の発明がこれに拍車をかけたことは、言うを俟つまい。

文字の発明、さらに活字・活版印刷の発明は、いつも人類の進歩という正の文脈の中で語られてきた。しかし、ことばそのものについていえば、文字の発明、活字・活版印刷の発明によって多くの記憶が失われたという負の面を見落としてはなるまい。これをことばの第一の危機、第二の危機とすれば、げんざい第三の危機が訪れている、と囁かれる。コンピュータの発明・普及によって、人類が記述・記録をコンピュータに委ね、自ら書くことを放棄する結果、第一の危機、第二の危機以上の莫大なことばの富が失われようとしている、というのだ。

この決定的なことばの危機に対処する方策はあるのだろうか。

## 生きていることば

人間が効率を追求する存在である以上、かつて文字の普及、印刷術の発展を止められなかったように、現在のコンピュータ技術の普及・発展を止めることは、誰にもできまい。しかし、ささやかな抵抗はできるはずだし、しなければならないだろう。ささやかな上にもささやかな抵抗の試みの一つとして、詩の朗読・聴聞がある。ことばの発信者と受信者のあいだに沈黙の言語があるのではなく、生きていることばがその場で直接に届くのだ。

まさにギリシア神話のオルペウスと聴衆の関係、いやオルペウス以前というほうが正確かもしれない。オルペウスは竪琴を手にしているが、現代の朗読する詩人はふつう楽器を持たず、声と身体だけで表現する。竪琴を持つオルペウスは文明がかなり進んだ段階での詩人の神話化であって、原初の詩人はやはり声と身体だけで表現しただろうからだ。楽器というなら、始原の楽器は声をつくり出す身体そのものだったはずだからだ。

声で表現する始原の詩のことばもまだ素材のままで、韻も律も持ってなかったろう。現代の詩も中心は韻も律も捨てて原始還りしたことばから成っている。そのことばはコンピュータに抵抗し、印刷術以前・文字以前を希求することば、といえばよかろうか。それはまた、中国から文字とともに詩が伝わってくる以前のわが国のうたのことばのありようとも重なろう。詩のことばと朗読についての小

## 大学院修士課程新人演奏会 ～平成29年度修了生による～

平成30年5月14日　ブラームスホール（江古田キャンパス）

森永 彰（打楽器）

上田菜緒（ピアノ）

前田領愛（ヴァイオリン）

奥秋大樹（バス・バリトン）

上坂愛美（ピアノ）

考、オルペウス以前のことばのありように到ったところで、リルケの「オルフォイスに捧げるソネット」第一部第一番(高安国世訳)を味わうことで、稿を閉じよう。

立ち昇る一樹。おお純粋の昇華！
おおオルフォイスが歌う！ おお耳の中に聳える大樹！
すべては沈黙した。だが沈黙の中にすら
あらたな開始、合図、変化が起っていた。

静寂の獣らが　透明な
解き放たれた森の臥床から巣からひしめき出て来た。
しかもそれが自らの内にひっそりと佇んでいたのは、
企らみからでもなく、恐れからでもなく

ただ聴き入っているためだった。咆哮も叫喚も啼鳴も
彼らの今の心には小さく思われた。そして今の今まで
このような歌声を受け入れる小屋さえなく、

僅かに　門柱の震える狭い戸口を持った
暗い欲望からの避難所さえ殆んど無かったところに――
あなたは彼らのため　聴覚の中に一つの神殿を造った。

▲ ギュスターヴ・モロー「オルフェウスの首を運ぶトラキアの娘」(1865)

## 音楽の万華鏡 42

# 拍があって拍子がないリズム

音楽のリズムを考えるとき、私たちはその曲は何拍子だろうと考えることが多い。

「肥後手毬歌」というわらべ歌がある。子供のころに、この歌を歌いながら「まりつき」をした思い出のある方も多いのではないだろうか。これは何拍子だろうか。歌いながらまりをつくので、明確な拍がある。しかし拍子がわからない。歌詞は問答で始まる。はじめは4拍で問いかけ、2拍で答える。次は3拍で問い、3拍で答える。「せんば山には狸がおってさ」から4+4を2回繰り返す。そして2、2、2とタヌキを食べてしまった後、4、1、3で、服のすその中にまりを入れて隠す。2拍子で楽譜を書いて、途中を3拍子にすれば、書けないことはないが、ことばの切れ目との兼ね合いがどうにも具合が悪い。じつは、このように拍があって拍子がないリズムは、世界中にたくさんある。たとえば、オペラのレチタティーヴォもそうである。

拍子は、刻まれる拍に規則的な変化があったときにはじめて感じられる。規則的な変化の周期が拍子といってもいいだろう。「肥後手毬歌」には拍のまとまりはあるものの、そのまとまりに周期的な変化がない。拍子がないのだから、拍子がわからなくて当然である。

このように、拍があって拍子がないリズムのことを何と呼んだらいいのだろうか。拍子のことを「拍節」ということもあるので、「非拍節リズム」といってもよいのかもしれないが、じつは、「非拍節的リズム」というと、無拍のリズム、つまり拍がない、あるいは手拍子が叩けないようなリズムも含まれてしまう。そもそも拍のないリズムに拍節の有無を問うこと自体がおかしいのだが、西洋の芸術音楽のほとんどが拍子のあるリズムで作られているので、西洋の芸術音楽を扱う限りは、拍子の有無でリズムを2分すればよかったのであろう。グローバル化した世界のさまざまな音楽を等しく扱おうとすれば、拍子の有無ではなく、拍の有無でリズムを2分するべきであろう。

薦田治子(本学音楽学教授)

# 卒業生インタビュー

## ～卒業式の定番ソング～

# 『旅立ちの日に』に込めた想い

● 高橋浩美 ●

（埼玉県立秩父特別支援学校教諭）

「白い光の中に 山なみは萌えて♪」と始まる、卒業ソングの定番『旅立ちの日に』。中学や高校の卒業式で歌った方も多いのではないでしょうか。実はこの『旅立ちの日に』は、埼玉県のある中学校で、先生から卒業する3年生へのプレゼントとして誕生した曲。作曲したのは武蔵野の卒業生の高橋（旧姓：坂本）浩美さんです。現在は県立秩父特別支援学校にお勤めの高橋先生に、名曲の成り立ち、今のお仕事、武蔵野の思い出などを伺いました。

（2018年5月10日インタビュー）

**高橋浩美** *Hiromi Takahashi*

埼玉県秩父市出身。埼玉県立秩父高等学校卒業。武蔵野音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。第4回埼玉県新人演奏会出演。現在は埼玉県立秩父特別支援学校勤務。1991年に作曲した「旅立ちの日に」は全国で1番歌われる卒業ソングとなる。現在は海外でも歌われるようになってきた。SMAP、秋川雅史など数々のアーティストがカバーしている。西武秩父駅の発車チャイムや、3月のみのお昼の防災無線放送にも使われている。
「明日に向かって」「Song is my soul」「歌おうOH MY HAPPINESS」「きみにとどけよう」などの合唱曲、埼玉県立大学歌、さいたま桜高等学園校歌、千葉市立磯辺小学校校歌などの校歌、さらに秩父市のゆるキャラ「ポテくまマーチ」、特別支援学校の生徒のためのミニミュージカルなどの作曲も手掛けている。

## 歌声の響く学校

**―― まず、『旅立ちの日に』が出来た経緯をお聞かせください。1988年に秩父市立影森中学校に赴任されたことが、きっかけだそうですが。**

**高橋**　当時は全国的にそうでしたが、赴任した当初の影森中学も全校的に落ち着きがなく、元気がない様子でした。最初に驚いたのは、始業式の校歌斉唱で子どもたちの声がさみしかったこと。授業中も、なかなか集中できない。そんな状況を何とか改善しようと、私と一緒に赴任された小嶋登校長先生が「歌声の響く学校」という目標を掲げられ、音楽を通して学校を立て直そうという活動を始められたのです。

**―― 高橋先生ご自身もかなり苦労されたそうですね。**

**高橋**　最初は、なかなか子どもたちの心を開くことができなくて。授業でも、声を引き出せませんでした。悩んでいた頃、部員不足で廃部寸前だったコーラス部が、新入生を勧誘して何とか存続できることになりました。ただ、混声合唱をやるには男声が足りない。そこで、3年生の男子全員に、全身全霊を込め身体をふるわせながら、「コーラス部の応援をしてほしい」と訴えました。すると、その日の昼休み、17人もの男子が音楽室を訪れてくれたのです。授業中は背を向けていた彼らが、やる気を見せてくれたんです。もしかしたら、その瞬間が『旅立ちの日に』のルーツかなという気がします。何年か後に話を聞くと、「僕たちは何かを一生懸命やるという機会がなかった。そこに先生がボールを投げてくれて、歌うことで学校が一つになっていくことがとても心地良かった」と言ってくれました。

**―― 「歌声の響く学校」という目標は達成されたのですね。**

**高橋**　活動を始めて2年、3年と過ぎ、学校の中に歌声があふれるとても良い状態になりました。そこで、私と一緒に3年間、頑張ってくれた生徒が卒業を迎えるにあたり、世界に一つ

▲ 影森中学時代の高橋さんと小嶋登校長

しかないプレゼントを贈りたいと思い、歌をつくることに決めました。

## 感謝の気持ちで作曲

**―― そして1991年、名曲『旅立ちの日に』が生まれるわけですね。**

**高橋**　ずっと支えてくださった小嶋校長に作詞をお願いしたら、「そんな才能はないから」と固辞されたのですが、翌朝、私の机の上に歌詞の書かれた紙が置かれていました。シンプルだけれどキラキラ輝く言葉がちりばめられていて、驚くとともに感動しました。すぐに音楽室に駆け込み、ピアノに向かって曲づくりに取りかかったのです。「勇気を翼にこめて♪」のメロディが最初に浮かんできて、あとは一気呵成。わずか15分ほどで完成しました。

**―― 天から降りてくるという感じですか？**

**高橋**　あるいは、地から湧いてくるというか。私は専門的に作曲を学んだわけではないので、ただ感性でつくったという感じ。子どもたちへの感謝の気持ちが、後押ししてくれたのかもしれません。

**―― 初めて披露した際の、生徒たちの反応はいかがでしたか？**

**高橋**　3年生を送る会の最後に、サプライズという形で教師一同で合唱しました。先生方には、事前に歌を吹き込んだカセットテープをお渡しして、覚えていただきました。最初、子どもたちは何が何だか分からずキョトンとしていましたね。私はピアノを弾きながら、自然と涙があふれてきたのを覚えています。

**―― 当初は、3年生を送る会で1回だけ披露するつもりでつくった曲が、全国的に知られることとなり、今では卒業ソングの定番になりました。**

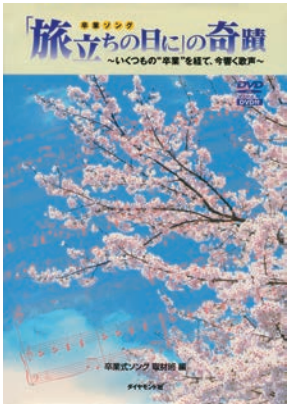
**高橋**　小嶋先生の詞が素晴らしいということはもちろん、松井孝夫先生が混声三部合唱に編曲してくださり、月刊誌「教育音楽」に掲載されたのも大きかったと思います。私のつくった曲が日本中で歌われるようになり、こんなに幸せなことはありません。

▲ 高橋さんの手書きによる初版の楽譜

## 特別支援学校での指導

**―― そもそも高橋先生が、教員になろうと思った動機は何だったのでしょう。**

**高橋**　音楽教師に興味を持ったのは、中学の合唱部での経験から。NHKコンクールの結果発表の歓声に感動したことが忘れられず、その歓声を得るために皆が協力してつくり上げていく、その過程に何より魅力を感じました。ですから、最初はコーラスの指導をしたいという思いでした。ただ、元々はピアニスト志望だったんですよ。小学校の文集には、「ピアニストになって、世界中を演奏旅行したい！」なんて書いていました(笑)。でも途中で挫折、大学院の試験にも失敗した折、ある中学で臨時で働いてみないかというお話をいただき、1年間だけということでやってみたら、指導することの面白さに目覚めてしまったというわけです。




▲ DVDブックも刊行された
『「旅立ちの日に」の奇蹟』(ダイヤモンド社)

**―― 高橋先生は、現在、埼玉県立秩父特別支援学校にお勤めです。ここに至る経緯は？**

**高橋**　影森中学時代に、特別支援学級の音楽の授業を受け持つことになったんですが、最初はどう指導したらいいのか分からず、色々な研修会に出て勉強しました。そのなかで、子どもたちにとって音楽がとても重要であり、また音楽が子どもたちに対してできることは沢山ある、ということを学びました。そして、音楽の指導にはこうした選択肢もあることに気づき、影森中学校から狭山市立東中学校を経て、15年ほど前に今の職場に移ることとなりました。

**―― 障がいのある子どもたちと、**

**日々どのように接していますか？**

**高橋**　とにかく、子どもたちが愛おしくて仕方ありません。大きなハンディを抱えている彼らにとって、学校に来ることだけでも凄いこと。そんな子どもたちに何ができるだろうかと、先生たちとチームを組んで、毎日アイディアを振り絞っています。苦労はありますが、それ以上に喜びの方が大きいですね。

**── 子どもたちとコーラスをしたりしますか？**

**高橋**　コーラスはなかなか難しくて、それ以前の音そのもの、その子の好きな音に寄り添ってあげるというのでしょうか。それは、素敵なハーモニーをつくろうとか、中学でコーラスを教えるのとは全く違うもの。もっと根っこの部分、例えば、どうしたら心が開かれるだろう、どうしたら笑顔になれるだろう、その辺を日々勉強している感じです。この仕事に就いて改めて良かったと思うのは、こうした音楽の根っこの部分を学ぶことができたことですね。

**── 現在の仕事のやり甲斐、また、音楽の持つ力について感じることは？**

**高橋**　音によって子どもたちの笑顔を引き出せたり、授業の中でとてもいい空気がつくれたり、そうしたときには幸せですね。心が解放されないと歌えないし、解放するためには、一人ひとりとコミュニケーションを積み重ねないといけない。信頼関係を築くことは簡単ではありませんが、大事だし、やり甲斐でもあります。ですから、新入生を迎える際にはアンケートをとり、どんな音楽が好きかなどを把握し、音楽のどんなところに魅力を感じているんだろうか、探りながら授業をつくっていきます。大変だけど楽しいですよ。

▲ 江古田新キャンパス　リストプラザにて

## 武蔵野の思い出

**── どんな学生時代でしたか？**

**高橋**　頻繁に図書館に行って、ショパンやラフマニノフのコンチェルトを聴きながら、ソリストを夢見ていましたね(笑)。早稲田と合同のテニス同好会にも入っていました。ピアノを師事したのは、市橋徹雄先生。口数の少ない先生で、「自分自身で考えなさい」という指導のスタンスでした。当時は色々悩みましたが、自分なりのものを追求するという姿勢が身に付き、今となっては感謝しています。あと、伴奏をするのが大好きだったので、声楽科の友達の伴奏にあちこち付いて行き、そこで聞いた声楽の先生のお話が、合唱の指導をするのにとても役立っています。5年ほど前、武蔵野の学年の同窓会があったのですが、最後に『旅立ちの日に』をみんなで合唱してくれ、感激しました。

▲ 秩父市立影森中学校にある『旅立ちの日に』の歌碑

**── 今日初めて武蔵野の江古田新キャンパスをご覧になったそうですね。**

**高橋**　江古田の地に立ったのも20年ぶり。街も随分変わりましたね。新キャンパスは、まるで夢の国。今の学生さんは幸せ過ぎます(笑)。

**── 武蔵野の後輩たちにアドバイスをお願いします。**

**高橋**　音楽には魔力があり、その特別な力を共に感じるにはたくさんの引き出しが必要です。いっぱいつくっておけば、どんな場面に遭遇してもその力を借り、幸せな時間を共有することができるはずです。色々な音楽に触れ、色々な活動をして、たくさんの引き出しをつくる努力をしてください。教員を目指す方へのアドバイスとしては、子どもを惹きつける話術、話力は大事だと思います。子どもたちは敏感ですから、本気でない、心のこもっていない言葉はすぐ見抜きます。ハートをキャッチするための術を、たくさん身に付けておいてください。

**── 最後に、これからの夢をお聞かせください。**

**高橋**　障がいのある方と健常者が、音楽を通して自然と心が通じ合える、そんな場をつくりたいですね。障がいの有る無しに関わらず、みんなが一緒に楽しく生きていける社会の実現に、少しでも貢献できたらと思っています。

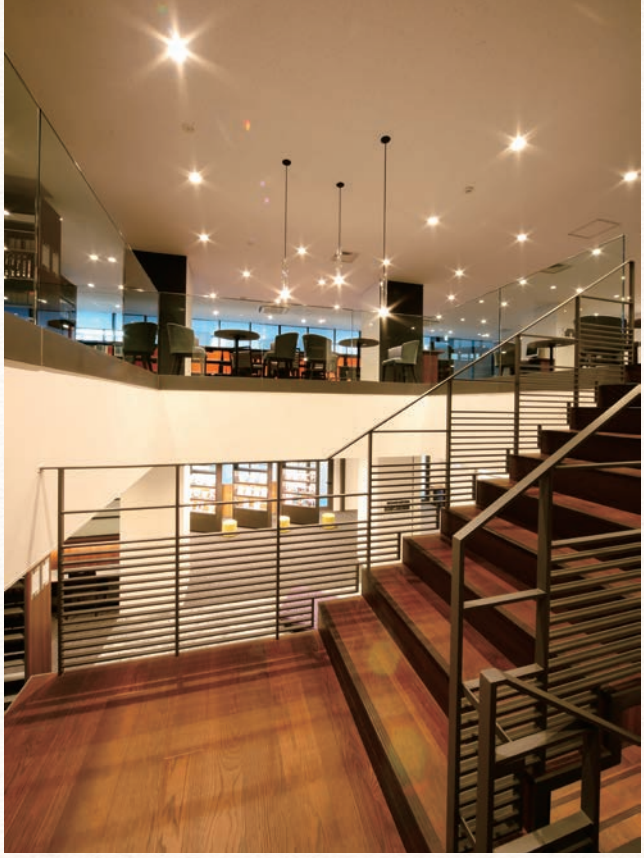
江古田新キャンパス探訪 5

## キャンパス中央に位置する知の交流拠点

# 「図書館」

（文：福井直昭 副学長）

**これまで江古田・入間の両キャンパスに分散していた資料・機能を整理統合し、最新の学修環境を整えた新図書館。インターネット経由のOPAC（オンライン閲覧目録）で検索可能な約30万点の国内有数規模の音楽資料は、日々の教育・研究に活用されています。時代の変化に対応し進化を遂げた“知の集積の場”を、図書館長でもある福井直昭副学長がご紹介します。**



▲ 開放的な吹抜け階段から見上げる2階サイレントフロア

## 開かれた図書館――学修意欲を誘発する快適な知的空間

新図書館は、学生利用の活性化を意図し、リストプラザ北側のキャンパス中央に位置しています。内部は機能別に3層にゾーニングされ、多様な学修スタイルに柔軟に寄りそう空間が実現しています。また、有線・無線LANの敷設を含むICTの整備は、図書館機能を格段に向上させました。

本図書館のシンボル的なスペースであり、1階床から2階天井までの壁面書架（高さ6.6m）が圧巻の吹抜け階段は、それぞれ性格の異なる各フロアを結ぶ核となっています。1階から地下1階へとつながる階段には、旧江古田キャンパスのレガシーである図書館前にあったステンドグラスが移設され、柔らかな光を呼び込んでいます。各フロアのリストプラザ側外周部や館内各ルームに対するガラスの多用は、周囲に対して「開かれた図書館」としての存在を主張し、「見る・見られる」の相互作用により学修意欲を誘発しています。

書架、カウンター、ソファ、机、椅子などの家具は、機能・素材・形状・カラーすべてをエリアごとのテイストに合わせてコーディネートし、それぞれで求められている空間づくりを促進しました。

▲ 1階：高さ6.6mの壁面書架と旧キャンパスから移設したステンドグラス

## 動から静へ――キャンパスの特徴を活かし多様な学修スタイルに対応する3つのフロア

キャンパスのエントランスからリストプラザ上にかかるブリッジを渡ると、すぐに1階の図書館入口にアクセスできます。各フロアには、下階から上階に向けて「動から静へ」と変化する性格を持たせました。プラザに面した地下1階を学生一人ひとりの“主体的な”学びを支援する場であるラーニングコモンズ、入口のある1階をメインとなるフロア、2階を静かに集中して資料を閲覧・視聴するフロアとして位置づけ、キャンパス各階の特徴に合わせた構成としました。

### ■地下1階：アクティブフロア

リストプラザに面し外部の賑わいと繋がる、開放的なフロアです。「アクティブコモンズ」では、グループワークやプレゼンテーションなどシーンに合わせ、可動式組み合わせテーブル、ホワイトボード、プロジェクター等を駆使

▲ 地下1階：リストプラザに面したオープンな雰囲気の「アクティブコモンズ」

▲ 1階：館入口付近に広がる新刊図書・雑誌、新聞が読める「ブラウジングエリア」

▲ 地下1階：最新のAV機器や電子黒板が設置された「アクティブルーム」

した多様な学修活動が可能となっており、新たな価値観と出会うことができます。パソコンコーナーの鍵盤付PCでは、自由に楽譜作成や作曲ができます。レファレンスデスクには、職員が学生と対座しながらじっくり研究を支援できる形状を採用しています。窓際のカウンター席は、プラザのカツラの高木を眺めながら四季の彩りが楽しめる人気エリアです。

大中小3つの「アクティブルーム」は、少人数から12人までのグループで利用可能です。知的好奇心を刺激するような最新のAV機器や電子黒板、壁一面のホワイトボードを設置しました。

また、フロアのオープンな雰囲気を表現すると共に、建学の精神〈和〉のこころを象るため、テーブルや照明器具、更には天井点検口までも全て円形(輪)で統一しています。仲間同士による能動的な学修活動により、人と情報とが活発に交流し合い、学生同士、学生と教職員との〈和〉がさらに広がることを期待しています。

### ■1階：メインフロア

館入口付近に広がる「ブラウジングエリア」では、斬新なデザインのブックシェルフに並ぶ新刊図書・雑誌、新聞をゆったりと読むことができます。

開架書架エリアには、最も利用頻度の高い音楽書が配架され、カウンターテーブルですぐに閲覧が可能です。

メインカウンターでは、図書・楽譜の貸出返却、ノートPCや地下1階アクティブルームの貸出・予約等の各種手続きのほか、施設・機器利用に留まらない様々な相談に対し、職員が応対します。

### ■2階：サイレントフロア

フロアコンセプトに合わせて抑えた色調のインテリアを選択し、落ち着いた空間としました。窓際のキャレルは雁行型のデザインで、あたかも書斎のようなセミプライベートスペースとなっており、集中して自修する学生たちの姿が絶えることはありません。吹抜け階段沿いには、ホテルのロビーを思わせるような居心地の良い閲覧席と、参考図書、一般書が並ぶ開架書架エリアが広がります。

「AVエリア」には、クラシック音楽が100万曲以上視聴できる配信サービスを導入した個人ブースのほか、色鮮やかな赤い椅子が人気のペア視聴席や、シースルーで開放的なしつらえながら、完全防音により自由な会話もできるAVルームがあります。

▲ 2階：個人ブース、ペア視聴席、AVルームから成る「AVエリア」

潜在的な“学び”の可能性を拡げた新図書館は、オープン後入館者数も大幅に増加しており、新しい知の交流拠点としてこれからも進化していきます。

## 多くの示唆を与えた２つの公開講座

### ❖ マルゲリータ・グリエルミ 声楽公開レッスン

去る5月17日、ブラームスホールに満員の聴講者を集めて、イタリアの名ソプラノ歌手 マルゲリータ・グリエルミ女史による公開レッスンが行われました(通訳：立野至美本学講師)❶。公開レッスンに臨んだのは、本学客員教授として招かれた女史のレッスンを受けた学生の中から選ばれた3名。数多くのオペラの舞台を踏み、ベルカントの伝道者であり教育者としても素晴らしい実績の先生だけに、身体の使い方、声の回し方、役の感情の理解と支えの関係、トリルの大切さなど、その指導は的確、かつ非常に具体的なものでした。

横隔膜での支えを意識して歌うというアドバイスの際には、ご自分のおなかを学生に触らせるなど、女史の温かい人柄とも相まって、とても有意義なレッスンとなりました。熱心に聴講していた学生たちには、今回のレッスンを更なる飛躍のきっかけとして欲しいものです。

最後に先生から、「学生たちはまだ声の芯、響き(timbro)を理解していない人が多い。特に中間音から下にtimbroがなく、カスカスになってしまいがち。支えとともにtimbroを見つけていくのは、オケを飛び越えて声を客席の一番後ろまで届けるため。きちんと芯のある声が出るように訓練することが大切」という総評をいただきました。

### ❖ ミヒャエル・クプファー＝ラデツキー バリトン・レクチャー＆コンサート

この5月、オペラ『フィデリオ』のドン・ピツァロ役で新国立劇場初登場を果たしたばかりのミヒャエル・クプファー＝ラデツキー氏によるバリトン・レクチャー＆コンサートが、6月1日、本学ブラームスホールにおいて開催されました❷❸(ピアノ：赤塚太郎氏／通訳：子安ゆかり本学講師)。

3

ラデツキー氏はヨーロッパ各地のオペラ劇場でワーグナー歌手として活躍しており、今回のコンサートでも、ワーグナーを中心に素晴らしい歌声を披露してくださいました。そして公開レッスン形式で行われたレクチャーでは、基礎となるドイツ語の表現方法や詩の理解を中心に丁寧に指導され、受講生はもちろん会場に詰めかけた満員の聴講者にとっても刺激に満ちた貴重な体験となりました。

1

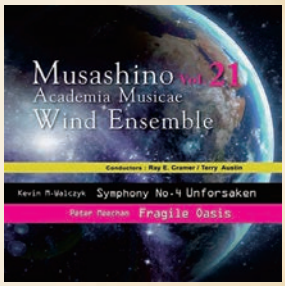
2

MUSASHINO 掲示板

### 武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル CD最新盤の発売

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブルの通算21枚目となるアルバムが、ブレーン株式会社から発売されました。今回のCDは、昨年度の定期演奏会で演奏した曲目からセレクトされており、本学ウィンドアンサンブルのために書き下ろした、ヴァルチック『交響曲第４番〈私はあなたを見捨てない〉』(世界初演)を始め聴きどころ満載です。(指揮：レイ・E.クレーマー／テリー・オースティン)

お求めはお近くの販売店で。本学演奏部窓口でも販売しています(税込2,484円)。



## 学園の春を飾った多彩な恒例行事

春、始まりの季節。武蔵野音楽大学、同附属高等学校、附属幼稚園においても、平成30年度の幕開けを飾る春の行事が、つつがなく行われました。

昨年スタートした江古田新キャンパスでは、4月8日、ベートーヴェンホールにておいて大学恒例の新入生歓迎会を開催。新入生のほぼ全員が参加し、先輩たちによるウィンドアンサンブルやメゾソプラノ独唱、ピアノ独奏などの歓迎演奏に聴き入りました❶。演奏会終了後には、学友会の紹介、各クラブの紹介、さらにロビーでは茶道部による抹茶サービスなどもあり、和気あいあいの雰囲気のなか、新入生たちは武蔵野の一員になったことを改めて実感したことでしょう。

附属高校では、5月、新緑まぶしい入間キャンパスで体育祭を開催❷。種目は、リレー・大縄跳び・綱引き・玉入れ・障害物競走・パン食いラムネ競争など多種多様。保護者参加のレクリエーションも行われ、大いに盛り上がりました。

5月下旬には、2年生が修学旅行に出かけました。三重県伊勢神宮を訪れ見学と参拝をし、お神楽を鑑賞しました。ミキモト真珠島に寄った後は賢島のホテルに一泊し、英虞湾の眺望も堪能。京都では班別行動にて市内を巡り、京都文化企画室で日舞・三味線・着付けの体験をしました❸。第一線で活躍されている方々と接することができ、とても有意義なひとときを過ごしました。さらに、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンにも訪れ、楽しい一日となりました。

一方、1、3年生は名栗川上流のせせらぎキャンプ場にて、校外学習（飯盒炊爨）を実施❹。火をおこすのに苦労しましたが、各班が創意工夫した料理のいい香りに包まれると、みんな満面の笑顔。川遊びも楽しみました。

3つの附属幼稚園では、自然に親しみ、クラスのお友達との親睦をはかる春の遠足を実施❺。年長児は子どもたちだけで、年少・年中児は親子いっしょに出かけました。元気に走り回ったり、泥んこになって遊んだり、青空の下でお弁当をいただいたり、みんなの思い出に残る笑顔の一日を過ごしました。

## 武蔵野音楽大学 同窓会全国総会のお知らせ

平成30年度武蔵野音楽大学同窓会全国総会は、来る8月7日㈫午後6時より、「HOTEL 椿山荘TOKYO」にて開催されます。
お誘い合わせの上、ぜひご来会ください。多数の皆様のご出席をお待ちしています。

## 武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金　ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、教育環境整備基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。　学校法人　武蔵野音楽学園

※ご芳名（五十音順）は、平成30年2月1日から4月30日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

※本学ウェブサイトからも、クレジットカード決済によりご寄附のお手続きができます。是非ご利用ください。

【同窓生】井上瑞枝様　岩間和子様　岩間 繁様　岩間 眞様　大久保優美子様　大藏美樹様　大野隆子様　越智はるみ様　亀崎光子様　鴨谷美夏代様　川里玲子様　菊地いづみ様　小出啓子様　合田弥生様　佐々木迪子様　澤田紀子様　塩山勝子様　白戸史子様　杉村寿美子様　鈴木光子様　関野 梓様　坪内佳子様　富澤直子様　豊田あい子様　鳥垣正子様　昭和59年入学同期会様

【在学生・同ご父母】今牛孝昌様　太田節雄様　大友博昭様　岡部行伸様　生越葉子様　川端伸次様　杉田真規子様　須田冨士子様　徳宮龍男様　室越 俊様　横手宏行様

【役員・教職員・一般・他】阿久津三智子様　石川 篤様　大槻恵司様　奥田 操様　粕谷康子様　佐野悦郎様　清水弘治様　髙濵 健様　長尾立矢様　中田淳子様　原田知子様　平山百合子様　福井直昭様　福井直敬様　萬歳典子様　宮村裕子様　村上直行様　吉岡成夫様　吉川 修様　（他に匿名を希望される方15名）

## 栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

（順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの）

●ロシア連邦政府主催2018国際プロフェッショナル音楽賞「Bravo」（ロシア）
オペラ部門　優秀賞受賞　古川精一（昭和63年大学声楽専攻卒業、本大学院修了、本大学院博士課程単位取得）

●瑞宝双光章受章　佐竹舒子（昭和42年大学声楽専攻卒業）

●第29回小泉文夫音楽賞受賞　薦田治子（本学教授）

●第18回日本フルートコンヴェンション2017 in 川崎　コンクール　アンサンブル部門　音楽大学・音楽大学卒業　金賞受賞　金子咲良（平成23年大学フルート専攻卒業）、神明弘奈（平成23年大学フルート専攻卒業）、●第20回"万里の長城杯"国際音楽コンクール　ピアノ部門　一般の部A　第1位入賞、中国駐大阪総領事賞受賞　山本己太郎（平成28年大学ピアノ専攻卒業、本大学院2年）、●第10回さくら音楽コンクール　ピアノ部門　一般A2　第1位入賞　椙松晶子（昭和57年大学ピアノ専攻卒業）、●平成30年度奏楽堂日本歌曲コンクール　第25回作曲部門　第2位入賞　小田実結子（平成28年大学作曲専攻卒業、本大学院修了）、第3位入賞　武藤道子（平成25年大学声楽専攻卒業、本大学院作曲専攻修了）、●第19回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA　大学生部門　全国大会　銀賞受賞　吉原麻実（大学3年ピアノ専攻）、●第9回岐阜国際音楽祭コンクール　管楽器部門　専門コース一般II　第3位入賞（1、2位なし）　川鍋さなえ（平成12年大学フルート専攻卒業）、●第7回秋吉台音楽コンクール　テューバ部門　第3位入賞　田中滉之佑（平成30年大学テューバ専攻卒業）、●2018年小澤征爾音楽塾オーケストラ・メンバーオーディションにピッコロ・フルート奏者として合格、オペラプロジェクトXVIに出演　島田　明（平成27年大学フルート専攻卒業、本大学院修了）

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。

## オープンキャンパス・学校説明会 & 体験レッスン

平成30年度のオープンキャンパス・学校説明会 & 体験レッスンは下記の日程で開催します。ぜひご参加ください。

| 日付 | 種別 | 開催地 |
|---|---|---|
| 7月　8日㈰ | 学校説明会＆体験レッスン | 石川県金沢市★／香川県高松市★ |
| 7月15日㈰ | オープンキャンパス | 武蔵野音楽大学 江古田キャンパス |
| 8月26日㈰ | オープンキャンパス | 武蔵野音楽大学 江古田キャンパス★ |
| 10月　8日㈪祝 | オープンキャンパス | 武蔵野音楽大学 江古田キャンパス |
| 10月21日㈰ | 学校説明会＆体験レッスン | 兵庫県神戸市／鹿児島県鹿児島市 |
| 11月　4日㈰ | 学校説明会＆体験レッスン | 愛媛県松山市 |
| 11月11日㈰ | 学校説明会＆体験レッスン | 北海道釧路市 |

| 日付 | 種別 | 開催地 |
|---|---|---|
| 12月　9日㈰ | オープンキャンパス | 武蔵野音楽大学 江古田キャンパス★ |
| 2019年 3月24日㈰ | オープンキャンパス | 武蔵野音楽大学 江古田キャンパス★ |

＊★印の催しでは附属高等学校の説明会も開催します。
＊事前申し込みが必要です。詳細につきましては、本学ウェブサイトをご覧ください。

【お問合せ】武蔵野音楽大学 入学センター　TEL.03-3992-2500
E-mail：nyugaku-c@musashino-music.ac.jp

**編集後記**

校長先生が一晩で歌詞を書き上げ、音楽教員だった高橋浩美さんがたった15分ほどで作曲した歌が、日本中に広まり、これからも末永く歌い継がれていく。『旅立ちの日に』をめぐる物語は、まさに音楽の不思議な力を証明しているようです。この歌の作曲者が武蔵野の卒業生であることを嬉しく思います（編）。

## 平成 30 年度 7月～9月　演奏会のお知らせ

**ケマル・ゲキチ　ピアノ・リサイタル**　7月 5日(木) 18：30 ベートーヴェンホール（江古田）　¥1,000〈全席自由〉
曲目＝ベルリオーズ（リスト編）：幻想交響曲、アレン：変奏曲、カプースチン：8つの演奏会用練習曲 Op.40 より

**武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会**　7月 12日(木) 18：30 東京オペラシティ コンサートホール　¥1,500〈全席指定〉
指揮＝レイ・E. クレーマー　7月 14日(土) 18：00 和歌山県民文化会館 大ホール
ピアノ独奏＝本学学生オーディション合格者　馬場春英（大学3年）　一般¥1,500／小中高生¥1,000〈全席自由〉
曲目＝ガーシュウィン：ヘ調のピアノ協奏曲より 第1楽章、ジルー：交響曲 第5番（日本初演）、2018年度全日本吹奏楽コンクール課題曲より　他

**武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会**　9月 16日(日) 15：00 北見市民会館 大ホール　一般¥1,500／学生¥1,000〈全席自由〉
指揮＝角田鋼亮　9月 19日(水) 19：00 東京芸術劇場 コンサートホール　¥1,500〈全席指定〉
ピアノ独奏＝本学学生オーディション合格者　［9/16］石田詩葉（大学2年）　［9/19］大竹千寛（大学4年）
曲目＝ベートーヴェン：《エグモント》序曲 Op.84、ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第4番 ト長調 Op.58、ベルリオーズ：幻想交響曲 Op.14

**武蔵野音楽大学附属高等学校音楽科　第22回在校生と卒業生によるコンサート**　※お問合せ＝武蔵野音楽大学附属高等学校 TEL.04-2932-3063
9月 22日(土) 15：00 ブラームスホール（江古田）　¥1,000〈全席自由〉

**中村 功　打楽器公開レッスン**　9月 25日(火) 18：30 ウィンドアンサンブルホール（江古田）　¥1,000〈全席自由〉

お問合せ　●武蔵野音楽大学演奏部　TEL.03-3992-1120
※やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。
※チケットは武蔵野音楽大学ウェブサイト http://www.musashino-music.ac.jp/ でも予約ができます。

## 2019年度（平成31年度）入学試験要項請求について

各入学試験要項（附属高等学校、大学1年次、大学3年次編・転入、大学院、別科）は、江古田キャンパスで取り扱っています。郵送をご希望の方は、本学ウェブサイト内の「資料請求フォーム」からお申し込みいただくか、広報室へお電話にてご請求ください。（TEL.03-3992-1125）

なお、受験講習会受講者でご希望の方には、講習会期間中に配付します。
本学ウェブサイト http://www.musashino-music.ac.jp/

## 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校　夏期講習会のお知らせ

| 講習会名 | 実施期間 | 申込受付期間 | 会場 |
|---|---|---|---|
| 大学受験講習会 | 第1期　8月 1日～8月 4日 | 7月3日（消印）～7月18日（消印） | 江古田キャンパス |
| | 第2期　8月27日～8月30日 | 7月3日（消印）～7月27日（消印） | |
| 高校音楽科受験講習会 | 第1期　8月 1日～8月 3日 | 7月3日（消印）～7月18日（消印） | |
| | 第2期　8月27日～8月29日 | 7月3日（消印）～7月27日（消印） | |
| 社会人のための夏期研修講座※ | 7月28日～7月30日 | 7月3日（消印）～7月18日（消印） | |
| 免許法認定講習<br>教員免許状更新講習とは異なります。 | 7月23日～8月 3日 | 7月3日（消印）～7月13日（消印） | |

◎大学受験講習会・高校音楽科受験講習会・社会人のための夏期研修講座については、本学ウェブサイトからのお申し込みも可能です。
※社会人のための夏期研修講座は、下記の Ⅰ～Ⅳ より各1講座を選択します。

Ⅰ ●中学生・高校生のためのピアノ指導法
●声楽指導法（ベルカント唱法を元にした英語歌唱法、G.Donizetti：Opera “La Favorite” フランス語初演版と “La Favorita” イタリア語版双方から見える世界、総合芸術オペラについて～歌手の目線から近年の演出について～）
●編曲法の実際（ピアノ曲、ピアノ伴奏をアンサンブルに編曲するための基礎知識の習得）
●音楽科指導の実際（新学習指導要領で示された「音楽科授業の教育意義」）

Ⅱ ●小学生のためのピアノ指導法　●器楽合奏（打楽器の基礎的な奏法を学び、創作活動を含めた打楽器アンサンブルの楽しさを体験する）
●ソルフェージュ（コードネームを中心とした、旋律の伴奏付けの実践演習）
●教材研究（フォーレのピアノ作品を中心に、フランス近代音楽における特徴と、今日の音楽に及ぼした影響を考える）

Ⅲ ●合唱指導　●カール・オルフの音楽教育　●個人レッスン（ピアノ、声楽のいずれかを選択）

Ⅳ ●パイプオルガンのたのしみ「パイプオルガン入門～音色作りのたのしみ～」　●メンタルトレーニング入門　●楽器学入門（管楽器・打楽器の歴史）

◎詳細は要項でご確認ください。　◎講習会要項は、本学ウェブサイトの「資料請求フォーム」からお申し込みくいただくか、広報室（TEL.03-3992-1125）へお電話にてご請求ください。本学ウェブサイト：http://www.musashino-music.ac.jp/

武蔵野音楽大学楽器ミュージアムだより――

# ヴァイオリン

**菅沼源太郎作　1967年　日本　全長59cm**

　このヴァイオリンは、名工、菅沼源太郎が製作し、昭和44年に武蔵野音楽学園創立40周年記念の祝品として、楽器ミュージアムに寄贈された楽器である。

　わが国におけるヴァイオリン製作の黎明期、菅沼は草分けの一人として独学で技術を習得したが、その妥協を許さない徹底した仕事ぶりは高く評価された。当時、鈴木梅雄、宮本金八、菅沼源太郎の3名は、わが国ヴァイオリン製作の3権威と称されている。

　菅沼は明治28年に静岡県に生まれた。17歳で浜松の山葉楽器製作所（現ヤマハ株式会社）に就職し、ヴァイオリンの修理を担当した。大正13年、第1号のヴァイオリンを完成させた後、昭和2年に独立し、東京に工房を持った。彼は宮内庁御用達という名誉ある肩書きを持って生涯に120本を超える楽器を製作している。昭和44年に紺綬褒章を受け、昭和50年に80歳でその生涯を閉じた。

　菅沼はヴァイオリン製作の傍ら、昭和44年より本学楽器管理室に勤務し、学生達の使う弦楽器の修理・調整に携わっている。その縁もあり、本学では彼自身が使用したヴァイオリン製作工具類139点の寄贈も受けている。

　菅沼は生涯をヴァイオリン製作一筋に捧げた。「私は生れてこのかた、一度も宣伝をしたことがない。宣伝などしなくても私は私なのだ。私の腕を知ってくれる人が求めてくれればよい」―― 昭和37年に掲載された日本経済新聞の記事での言葉からは、明治生まれの職人らしい気骨あふれる彼の人柄がうかがえる。

（武蔵野音楽大学楽器ミュージアム所蔵）

## ✣目 次✣


**オルペウス以前　詩のことばと朗読** …… ❶
高橋睦郎

**音楽の万華鏡** …… ❺
拍があって拍子がないリズム　薦田治子

**卒業生インタビュー** …… ❻
～卒業式の定番ソング～
『旅立ちの日に』に込めた想い　高橋浩美

**江古田新キャンパス探訪⑤** …… ❾
図書館

**MUSASHINO NEWS** …… ⓫
✣多くの示唆を与えた２つの公開講座
✣MUSASHINO 掲示板
✣学園の春を飾った多彩な恒例行事
✣武蔵野音楽大学 同窓会全国総会のお知らせ
✣武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金　ご寄附をいただいた方々
✣栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）
✣オープンキャンパス・学校説明会＆体験レッスン
✣平成30年度7月～9月 演奏会のお知らせ
✣2019年度（平成31年度）入学試験要項請求について
✣武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 夏期講習会のお知らせ



武蔵野音楽大学大学院
博士前期課程・博士後期課程
武蔵野音楽大学
武蔵野音楽大学別科
武蔵野音楽大学附属高等学校
武蔵野音楽大学第一幼稚園
武蔵野音楽大学第二幼稚園
武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園
附属音楽教室 江古田・入間・多摩

✣発　行✣
学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス　●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121（代表）
入間キャンパス　●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111（代表）
パルナソス多摩　●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711（代表）

http://www.musashino-music.ac.jp/

2018年7月1日発行　通巻第126号